

陳応時教授のご紹介

柘植元一

陳応時先生は現代中国を代表する音楽学者の一人です。本日第26回小泉文夫音楽賞を受賞されることを心よりお喜び申し上げます。中国の音楽学者としては、黄翔鵬教授（第7回）と沈怡教授（第22回）につづいて、三人目の小泉賞受賞者ということになります。

陳先生は上海音楽学院の音楽学系教授でいらっしゃいます。先生が送ってくださった略歴によれば、1956年上海音楽学院附属中学に合格。1959年9月入試を免除され上海音楽学院民族音楽系に進学。民族音楽理論を専攻し、沈知白、于会泳、夏野ら著名な作曲家・音楽理論家に師事。1964年7月卒業後、請われて母校に残り、今日まで半世紀以上にわたって後進の指導にあたってこられました。

ここで誤解を避けるために、「民族音楽系」「民族音楽理論」という中国語に註をつけておく必要があります。中国語の「民族音楽」は（少なくとも1980年代までは）、自民族の音楽、つまり漢民族の音楽を意味しました。日本語では自国の音楽を「邦楽」とか「郷土の音楽」と呼んで、諸外国の「民族音楽」と対比させることが多いので、いささか混乱しますが、中国語の「民族音楽学」は中国音楽の研究を指しました。

この間、陳先生は『中国大百科全書・音楽舞蹈巻』の編集に従事される一方、英国ベルファストのクィーンズ大学人類学科や、香港中文大学中国文化研究所の客員研究員、英国ケンブリッジ大学のゴンヴィル・アンド・キーズ・コレッジや米国アーカンソー大学音楽科客員教授を勤められました。また、中国音楽史学会や中国律学学会副会長を歴任されました。

さらに、特筆すべきことは、陳先生は国際交流基金と国立音楽大学の招きで1994年の9月末から10月半ばにかけて来日されたことです。この時は、国立音楽大学、大阪大学、慶応義塾大学、武蔵野音楽大学、東京藝術大学、そして日本・東洋音楽学会合同例会で講演されました。この一連の講演内容は東川清一氏との共著『音楽の源へ—中国の伝統音楽研究』（春秋社、1996）として刊行されているので、陳先生のご研究の一端を日本語で読んでおられる方々も少なくないと思います。

陳応時先生はその優れたご研究で数々の賞を受けておられます。1986年、上海市（1979-1985）哲学社会科学優秀論文賞、1987年、中華人民共和国文化部科学技術成果賞。1992年、文化事業の発展に傑出した貢献を果たしたとして、國務院政府特別手当を受けられました。さらに、1994年には国家教育委員会第1回人文社会科学優秀成果芸術学二等賞（一等該当者無し）を、2007年には『敦煌楽譜解釈辨証』で中国音楽家協会金鐘賞第1回理論評論一等賞に輝きました。

陳先生が送ってくださった略歴に記された主要業績一覧を下に引用させていただきます（尾高暁子訳）。

陳応時主要業績

編著書

『中国民族音楽大系・古代音楽卷』（夏野、銭仁康、洛秦、龔林と共著）、上海音楽出版社、1989。

『音楽の源へ——中国伝統音楽研究』（東川清一と共著、村越貴代美訳）、東京、春秋社、1996。

『中国學術名著提要・芸術卷』（第一副主篇）、復旦大学出版社、上海、1996。

『音楽百科詞典』（第二副主編）、人民音楽出版社、北京、1998。

『中国音楽簡史』（陳聆群ほかと共著）、高等教育出版社、北京、2006。

論文

「論証中国古代的純律理論」『中央音乐学院学報』1983年第一期、pp.34-39、北京。

「転旋・転均・転旋均——東川清一論文を読んで」（陳瑩玲、村越貴代美、幸福香織訳）

『音楽芸術』1983年7月号、pp.70-72、音楽之友社、東京

「転旋均・唐代犯調・日本音階」（松岡栄志訳）『音楽芸術』1984年9月号、pp.88-96、音楽之友社、東京

‘Temperamentology in ancient Chinese written records’ (translated by Michael Sawyer and Coralie Rockwell), Musicological Society of Australia ed. *Musicology Australia*, vol.11, Issue 1, Jan. 1988, pp. 44-64, Sydney.

「中日楽律二題」『星海音乐学院学報』1994年第22期、pp.6-15、広州

「敦煌楽譜新解」『音楽芸術（上海音乐学院学報）』1988年第1期、pp.10-17、上海

「敦煌楽譜新解（続）」『音楽芸術』1988年第2期、pp.11-5, 11-22、上海

「中国伝統音楽基本理論」『音楽芸術』1995年題1期、pp.1-8、上海。

‘Fundamental Theories of Chinese Theory and Notation in China’, Robert C. Provine, Yosihiko Tokumaru, J. Lawrence Witzleben eds., *The Garland Encyclopedia of World Music*, Vol.7 East Asia: China, Japan, and Korea, pp.115-126. (Christopher Evans trans.), Routledge, Taylor & Francis Group, London

「曾侯乙鐘磬銘文疑難字積義述評」『音楽芸術』2002年第3期、pp.84-93、上海

「日本平均律理論の由来」『音楽研究』2005年第2期、pp.17-21、北京

「一種体系 兩個系統——論中国伝統音楽理論中的“宮調”」『中国音楽学』2002年第4期、pp.109-116、北京

「古代中国和朝鮮的律呂、宮調図解」『中国音楽学』2006年第2期、pp.84-93、北京
「読朝鮮時代『詩楽和声』中の“旋宮本原図”」『人民音楽』2012年第10期、pp.55-57、
人民音楽出版社、北京
「亀茲五弦琵琶東伝日本考」『絲綢之路』2013年第4期、pp.34-37、西北師範大学、蘭
州
「宋代琴律理論中の“自然之節”論」『音楽芸術』2014年第2期、上海

(東京藝術大学名誉教授)